

いただいたご意見に対する対応状況

平成19年11月末現在

1. 防災局

(1) すぐに判断・検討すべきと判断した意見

担当課	意見内容	意見に対する回答
消防課	鳥取市内には貯水場がない。都会では雨水をビルの地下に貯めたりしているが、鳥取もいろいろな場所に貯水場を作ってはどうか。また、火災は緑があるところで延焼が止まるので、景観上も安全上の観点からも緑を増やしてほしい。	消防水利の確保・整備は市町村(消防局)の仕事です。各市町村では「消防水利の整備基準」に基づき、年次整備計画を立てて消火栓、防火水槽の整備を行っています。県としては、今後とも、市町村に対してその整備促進を働きかけていきたいと考えています。(参考:平成19年4月現在、鳥取市管内に設置されている防火水槽は453基、消火栓を含む消防水利の充足率(基準数に対する整備数の率)は125%となっています。)
消防課	防火対策で、冬、用水路に水がない。農業用水の管理を市民と農業者が共同で行い、冬も水が流れるようにしてはどうか。	消防水利の確保に当たっては、各市町村(消防局)で、河川、用水路、ため池等の自然水利を活用しているほか、消火栓、防火水槽を整備しています。冬場の消火用水の確保に当たっても、万が一火災が発生した場合には、水利管理組合等に対して用水の放流(使用)について協力をお願いしていると聞いています。今後とも、必要な消防水利の確保に万全を期すよう、市町村等に働きかけていきたいと考えています。
防災危機管理課	地震対策について鳥取大学専門家の意見を参考にされたり、共同研究を実施してはどうか。	平成17年3月に県が取りまとめた地震被害想定調査研究のための委員会(10名)に、委員長と委員4名の計5名を鳥取大学の先生に務めていただきました。また、専門家の意見を県の防災対策に生かすため「鳥取県防災顧問」を設置しており、地震対策をはじめとする5つの専門分野に、5名の鳥取大学の先生に就任していただいております。平素から助言や協力をいただいております。今後とも、必要に応じて共同研究を実施するなど、連携を図っていくこととしています。
防災危機管理課	病院の避難訓練等で、長時間医療を受けている患者(透析等)が訓練を受けられるように考えてほしい。	防災局としては、病院関係の所管部局に対し、各病院による実効性確保のための積極的な訓練実施の働きかけを要請しています。

(2) 政策提案と判断した意見 なし

(3) 参考意見

担当課	意見内容
消防課	川の水量が減り防火用水にもならない。

2. 総務部

(1) すぐに判断・検討すべきと判断した意見

担当課	意見内容	意見に対する回答
管財課	県立博物館は駐車場が少ない。県庁と博物館の道順案内も不親切でウロウロした。西部の人にももう少しメリットが感じられるようなものにしないと、鳥根県へ流れてしまう。	県庁構内と北側緑地公園内に道順案内板の設置を検討したいと思います。
行政経営推進課	県職員の数が多い。臨時職員で賄える仕事であれば、正職員はそんなに要らないのではないか。	県では、今後4年間で5%以上の定員削減を進め、県庁のスリム化を図っていきます。その過程で、定型的な事務など臨時職員や非常勤職員で対応可能な業務を洗い出し、随時正職員の削減を図りたいと考えます。
庶務集中局集中業務課	県からの発注形態は、物を作るときには値段の安さで決められている。文化を育て、地域の力を育てるためにも地域に発注するような配慮がほしい。	庶務集中局集中業務課が行う物品の調達については、原則として、鳥取県内に本店、支店、営業所等を有する事業者を対象とした制限付一般競争入札を実施し、県内事業者への優先発注を行っています。

(2) 政策提案と判断した意見 なし

(3) 参考意見

担当課	意見内容
財政課	補助金について、本当に必要なものなのかどうか見えてくる時期ではないか。よく考えて精査してほしい。
税務課	県民の消費は県外ではなく県内で行う。そうすれば、県内の消費税収入が増え、県の財源が増える。このことを、もっとPRした方が良い。
県民室	JR松崎駅には燕趙園の玄関駅であることが表示されていない。こういうときに官民協働で何とかしたいと思っても、「ここは県です」「ここは国です」「ここはJRです」…となってしまう、役所間を相当走り回らないといけない状況がある。行政内部が分断された状況だと、行政の内部状況に通じ、様子に詳しい人だけに非常に有利になるような気がする。一般の人には、どこに訴えたら解決されるのか、補助が頂けるのかわからない。不公平感すら感じる。先ほど情報公開が進んだと言われたが、この事業の予算がいくら、といった情報よりも、自分たちがこういうことをしたい、と思ったときに、どこに行けば必要な情報が手に入るのか、道筋を教えてもらえるのか、そういった情報があればと思う。
政策法務室	法テラスが鳥取市にされているが、スムーズな問題解決のためにも、米子市にも設置してほしい。

3. 企画部

(1) すぐに判断・検討すべきと判断した意見

担当課	意見内容	意見に対する回答
交通政策課 (景観まちづくり課)	鳥取駅に地下駐車場があれば、観光客が荷物を車に積むことができ、更なる観光客の増につながる。	鳥取駅の地下駐車場整備については、多大な整備費用が必要なこと及び隣接してJR管理の無料駐車場(駅北口前)と有料駐車場(駅北口の風紋広場東側、駅南口前)があることなどから、その実現は非常に困難と考えています。 なお、来訪者の増加に向けた駐車場対策については、100円循環バス「くる梨」と民間有料駐車場等と連携したパークアンドライド等について鳥取市と検討を進めています。 また、鳥取市が策定された「鳥取市中心市街地活性化基本計画」の中で駅前の立体駐車場整備、歩行空間や駐車場のあり方についての社会実験等が計画されておりますので、こうした取り組みにも協力していきたいと考えています。
交通政策課	バスについて、運行の遅れで遅刻した場合、鳥取駅前バスターミナルで遅延証明書を受け取らないといけない。例えばバス会社のホームページに遅延したことを表示させ、それで証明できるように改善してほしい。	現在の路線バス車両には、無線・GPSの装置がなく、また運転中は携帯電話の使用ができないため、運行が遅れても直ちに営業所等が把握することができない状況です。 このような理由から県内運行のバス全ての遅延情報をホームページに即時的に反映することは実務的に困難です。
交通政策課	米子-ソウル便の維持について、必ずしも商売に結びついていない感がある。国際便のビジネス利用であれば、ソウルよりむしろ中国ではないか。他のところを考えたりのないのか。	米子-ソウル便によって、米子空港と韓国の首都ソウルにあるハブ空港が結ばれています。この路線の維持によって、首都ソウルはもちろん、中国国内各地をはじめとするソウル以遠への乗継利用も可能となっています。 中国への新規定期空路の開設については、米子-ソウル便と両立できるのであれば、検討に値すると思いますが、現在のところは、新規路線開設よりも既存の路線の維持存続に力を入れたいと考えています。
青少年・文教課	環境大学は県立にしないと人は来ない。大学を利用した知的活動をし、知的レベルを上げていくことを積極的に展開してほしい。	鳥取環境大学の運営形態については、大学の設立に当たりいろいろな意見がありましたが、公設民営方式の私立大学としてスタートしました。 県としては当初の設立経緯もあり、運営主体を再検討するよりも、教育内容の充実や良好な就職状況のPR等により大学の魅力を高めていただくことが優先すると考えます。 なお、鳥取環境大学の入学者確保については鳥取市とも協力して、大学が行う取組みについて支援を行っているところです。また、県と大学との協議会の設置や大学の研究や学生活動などの情報発信等、これまで以上に大学との連携を強めていきたいと考えています。 いただいた御意見は大学にもお伝えします。
青少年・文教課	環境大学の入学希望者や入学者の数が思わしくない。卒業後の就職等、宣伝が足りないのではないかと。学生が社会に出てどういう活躍をしているのか分析しておく必要がある。	鳥取環境大学の入学者確保については、県も鳥取市と協力して、大学が行う取組みについて支援を行っているところです。鳥取環境大学の就職状況は非常に良好であり、このことを学生確保にあたり積極的にPRしていくことが必要と考えます。 なお、鳥取環境大学は公設民営の私立大学であり、学生確保の主体は大学にありますので、いただいた御意見は大学にもお伝えします。
青少年・文教課	養護学校との生徒とふれあう機会をもっと増やすため、学校のバリアフリーを進めてほしい。	各私立学校において、障害のある生徒を受け入れた際、バリアフリー化のための設備を整備されているように把握していますが、いただいた御意見をお伝えし、より一層の整備を計画的に実施されるようお願いしていきたいと思っております。

広報課	<p>公民館長をしているが、「県政だより」や「市報」、地域情報誌など、様々な配布物がある。配布物を読まないという声もあるので、回覧とか、公民館での閲覧にしてはどうか。有料化を考えてはどうかとも思う。</p>	<p>県政だよりでは、県政の重要な課題やお知らせ、地域の歴史文化など、県政のさまざまな情報をお伝えしています。このような情報の中には、県民の皆様からご意見を募集するものや各種の募集・イベント案内など、期限の定められたものもあります。自治会などで回覧をするという方法は、全ての皆様のもとに情報が届くのにかなりの日数がかかり必要な情報が必要なときに届かない恐れがあるため、難しいと考えています。</p> <p>また、「配布物を読まないという声もある」というご指摘をいただきましたが、「毎月県政だよりが届くのを心待ちにしている」というお便りもたくさんいただいています。高齢の方が増えていく中、わざわざ公民館などに出かけて閲覧していただくというのは、かなり不便を強いることとなります。県政の重要な情報は県民の皆様のお手元に届けるというのが基本だと考えています。</p> <p>県政だよりでお伝えしているような県政の基本情報は、全ての県民の皆さんが当然提供を受ける権利を持っているものです。そのため、県政だよりを有料化することは考えていません。なお、現在、全世帯配布の媒体であることを活用して広告を募集し、新たな収入を得るといったやり方を検討しています。こうした手法により、県民の皆様にとって重要な県政情報を提供しながら、財源の確保にも取り組んでいきたいと考えています。</p>
広報課	<p>「とっとりNOW」は素晴らしい本である。もっと本格的なものにすると共に、活用して行ったらどうか。例えば、置いてもらえる書店を作るとか。</p>	<p>「とっとりNOW」は鳥取県広報連絡協議会が企画・編集・発行しており、鳥取県の優れた魅力を掘り起こして取り上げるとともに、モニターや読者からのご意見も参考にしながら企画内容を随時見直し、充実を図っています。県内主要書店や一部の県外書店で販売しているほか、全国のマスコミ、旅行会社等や、ふるさと鳥取ファンクラブの会員へ配布するなど、鳥取県の情報発信のツールとして活用しています。</p>
次世代改革室	<p>ビジョンに関する意見募集等を行う際に、スーパー等、一般の方が利用しやすいところを利用してはどうか。</p>	<p>県民の皆様からご意見・提案をいただくため、「鳥取県の将来ビジョンの骨子の作成に向けての検討資料」をはじめ、関連資料を、県ホームページ「とりネット」に掲載するとともに、県民室、各総合事務所県民局等県の窓口へ備え付けました。</p> <p>また、ご意見は、郵便・ファクシミリ・電子メール及び県民室・各総合事務所県民局に設置してある意見募集箱により募集しました。</p> <p>ご意見のように、スーパー等にスペースを設置していただき、資料を提示し、ご意見をいただく方法も1つの案と考えますが、その場合、設置をしていただくスーパー等の了解が必要となり、また設置期間中の管理も併せてお願いすることとなり、民間事業者に相当のご負担をお願いすることとなります。</p> <p>このことから、現在のところ、意見募集の際のスーパー等の利用は考えていません。</p>

(2) 政策提案として対応する意見

担当課	意見内容	意見に対する対応
青少年・文教課	<p>山陰の大学数は少ないが、他大学の講義を受講したり、単位取得できるような、大学同士の連携がもっとあればよい。</p>	<p>産業構造の変化や国際化・情報化の進展などによって社会が大きく変化していく中で、各地の大学では、大学教育に対する社会の期待や学生ニーズの多様化にさらに対応していくため、様々な改革や試みがなされています。</p> <p>ご提案の「他大学の講義を受講したり、単位取得できるような」システムも、近年、各地で設立されている「大学コンソーシアム」(近隣地域にある複数の大学や短期大学が連携した組織で、大学等相互の連携・交流の強化、各大学等の教育・研究を充実・発展などを目的。)において実施・検討が進んでいます。</p> <p>山陰においても、鳥取県及び島根県の高等教育機関(鳥取大学、鳥取環境大学、鳥取短期大学、島根大学、島根県立大学)が参加し、平成14年3月15日に「大学コンソーシアム山陰」が設立されています。今後、単位互換等も含めて様々な事業を検討していく予定とのことですので、県としてもそうした大学間の取組みに期待するところです。</p> <p>(教育文化振興・子育て支援チーム)</p>

広報課	鳥取のことが全て分かる冊子をつくってほしい。分野別でも良いので総合的に発信できるような冊子を作ってほしい。	鳥取県を県外、国外に紹介する冊子を全面改定し、本年3月に発行しました。 鳥取県の自然、歴史、文化、産業、福祉、教育などについて幅広く掲載し、県民の活動やPRポイントを紹介しています。 (産業振興・雇用確保チーム)
広報課	鳥取に何があるか知られていない。行政がマネジメントするタレントをつくり、積極的にアピールしてくれる方を生み出してはどうか。	ご提案の趣旨を踏まえ、関係課の職員による検討会を開催するなど、具体的な取組みについて検討中です。 (産業振興・雇用確保チーム)

(3)参考意見

担当課	意見内容
政策企画課	北東北3県(青森・秋田・岩手)の観点を参考に、今後10年は鳥取県だけでなく島根県と連携していくことも必要。
政策企画課	将来の道州制をにらんで、中海市の米子、境港、松江、安来の経済域で、産業の振興など、いろいろなことをやってほしい。
政策企画課	道州制が10年後には現実味を帯びてくる。山陰と山陽の格差の問題もあり、鳥取県の良いところを打ち出し、売りにするような取組みを、早めに行う必要がある。
政策企画課	10年後のビジョンは道州制の議論になるのではないかと。行政が変わると、まるっきり変わってしまう。鳥取県は道州制になると、衰れな地域になってしまうのではないかと。
政策企画課	道州制では明治時代の鳥取・島根のようなことにならないようにする必要がある。
政策企画課	地方分権で国から事務がどんどん降りてくるが、財源の部分は削られている。仕事に見合った財源を地方に譲渡することが必要。思い切った分権を行うため、知事会や市町村会の活動に期待する。
交通政策課	若桜鉄道について。運賃が非常に高い。3ヶ月定期が54,720円。弟も高校進学を迎え、家計に影響。補助金の充実や利用者増加の努力を望む。
交通政策課	スーパーはくどで車内販売をやめるといったアナウンスが流れていたが、ものすごくマイナスイメージ。経営が悪いのかと誤解を招く。
交通政策課	アジアナの件は、税金の垂れ流し。搭乗率が下がったら補助金で対処するというのであれば、民間は努力しなくなる。お金をかけるのではなく、別の方法でつなぎ止めるべき。
青少年・文教課	学校で、自分にあった先生を選べるシステムがあれば、もっと勉強する気が湧くのではないかとと思う。
青少年・文教課	高校教育にもっとお金をかけて欲しい。学食があればいい。一般的な教養を身につけることも分かるが、もっと柔軟な学習課程となり、大学受験に的を絞った学習がしたい。
協働連携推進課	鳥取駅周辺などにごみが目立つ。高校生も参加できるリサイクル運動などを進めてはどうか。鳥取湖陵高校には緑地デザイン科がある。駅周辺の緑を増やす活動など、地域活性化に高校生を活かしてほしい。
協働連携推進課	倉吉でレトロ博物館の試みがあった。県も市も地域も一体となっており、協働の好例と感じた。赤瓦の運営についても、倉吉市は途中から「人が出せないで資金だけ提供する」という関わりが変わった。資金もうれしいが、やはり一緒に取り組んでいくということをやりたい。
協働連携推進課	「協働」は行政にお金がないから進めるというものではなく、住民に力をつけてあげることが鍵になる。かつて旧東郷町に、県から林助役に来ていただき、東郷池の周りに椿を植えて油を採ったりすることを進めたが、これを契機に次第に東郷池の環境問題に進んでいった。彼から、これからは協働の時代になるのだということを教わった。さりげなく先を見て動くことが行政の役割ではないか。埋もれているいいものに目をつけるところが行政の腕の見せ所では……
広報課	JR松崎駅には燕趙園の玄関駅であることが表示されていない。こういうときに官民協働で何とかしたいと思っても、「ここは県です」「ここは国です」「ここはJRです」……となってしまう、役所間を相当走り回らないといけない状況がある。行政内部が分断された状況だと、行政の内部状況に通じ、様子に詳しい人だけに非常に有利になるような気がする。一般の人には、どこに訴えたら解決されるのか、補助が頂けるのかわからない。不公平感すら感じる。先ほど情報公開が進んだと言われたが、この事業の予算がいくら、といった情報よりも、自分たちがこういうことをしたい、と思ったときに、どこに行けば必要な情報が手に入るのか、道筋を教えてもらえるのか、そういった情報があればと思う。

広報課	鳥取県の情報が、東京・大阪に発信されてこない。情報を選択・集中し、情報発信や若者向けの提案を行ってほしい。
広報課	鳥取のイメージの作り方をもっと明るくしたほうが良い。パンフレット等の表紙に砂丘の写真ばかり使わなくてもよいのではないか。
次世代改革室	タウンミーティングはガス抜きのような感じがする。(ビジョンの作成にあたり)県民との合意形成をどのように図っていくのか教えてほしい。

4. 文化観光局

(1) すぐに判断・検討すべきと判断した意見

担当課	意見内容	意見に対する回答
文化政策課	高岡で郷土芸能を定期的に上演する施設があり大変良かった。鳥取市等でも、傘踊りや貝殻節があるので、観光客にPRする方法として定期公演的なことを考えるべき。	本県では平成21年秋に「地域伝統芸能全国フェスティバル」という全国規模の催事を開催する予定です。その取組みの中で伝統芸能を実践している皆様に、伝統芸能による鳥取県の魅力アップに参画していただき、その後につなげていきたいと考えています。 また、古くからその土地で行われてきた土着の祭・行事の時期、場所などが、「祭・行事データベース(博物館)」で容易に把握できるようになりましたので、それらの行事を観光ルートに取り込んでいけるような工夫を観光担当課と考えていきたいと思えます。 県のホームページで公開中
観光課	アジアナ航空への補助金に関し、境港等の県内の観光と韓国の観光をセットにすれば、県外客も米子空港を利用するようになるのではないかと。	米子～ソウル便の搭乗率を向上させるためには、韓国から日本へ来ていただくだけでなく、日本からも観光に行くことは重要です。県外の方々にも本県を観光していただいた上で、米子～ソウル便を使って韓国へ行っていただくということは、おもしろい提案ですが、旅行日程が長くなり、経費的にも割高になるなどの課題もあります。 米子～ソウル便を活用した県外客への旅行商品の企画販売については、機会を見て、旅行エージェント等にも話をしていきたいと考えています。
地域資源振興室	三徳山の投入堂に容易にいける方法がないか。例えばエスカレーターを付けるとか。	三徳山は、古くから修験中の行者が修行をする信仰の山です。その建築物は、あえて厳しい自然環境の中に巧みに建造され、またそれが長い間守られたが故に歴史遺産として国宝や重要文化財に指定されています。 今後も、この歴史景観を守り、後世に伝えていくことが、今求められているものと考えており、エスカレーターを敷設するなど、投入堂に行く方法として新たな設備を導入することは適切ではないと考えています。
地域資源振興室	三徳山の正面の山に展望台を作ってはどうか。	三徳山の対岸には、投入堂も展望することができる東屋が散策道とともに整備されています。
地域資源振興室	以前住んでいた岩手県では、地域を大切にしている心が強かった。鳥取の人は地域資源を知らない。地域ブランドを向上・紹介するセクションを作ってはどうか。	県内には、多くの可能性を秘めた地域独自の資源がありますが、地域に住んでいる人が気が付かないものも多くあるのも事実です。現在、県内外の専門家等と連携し、観光や商工業など様々な分野で、その活用に向けて取組みを進めているところです。

(2) 政策提案として対応する意見

担当課	意見内容	意見に対する対応
観光課	袋川を舟で下って花見をすることができるようにすれば、県外からも観光客が来るのではないかと。	現在、対応を検討中です。
観光課	兵庫県は、「走る県民教室」と称して県内施設を回る旅行に対してバス代を補助している。兵庫県とタイアップすれば鳥取県にも観光客が入る。隣県とのタイアップは必要。	現在、対応を検討中です。
観光課	鳥取県は著名なまんが家の出身地があり、紹介施設もある。鳥取駅から連絡バスを出すなどして、出身地をうまく利用することを考えてはどうか。	現在、対応を検討中です。

(3)参考意見

担当課	意見内容
文化政策課	文化面は西部で国民文化祭や朝日座等を行ったが、何も残らなかった。場当たりのななことはやめて、地域文化の活性化を図るため、全員参加型の文化の形を作っていかなければならない。
観光課	鳥取駅に地下駐車場があれば、観光客が荷物を車に積むことができ、更なる観光客の増につながる。
観光課	北海道でライジングサンフェスティバルというイベントがあるが、交通の便が悪いにもかかわらず、毎年100万人くらいの人がある。要は中身が大切ということ。鳥取も先に中身を作っていくことが必要。自然や環境を活かしたイベントをやってほしい。
観光課	高岡で郷土芸能を定期的に上演する施設があり大変良かった。鳥取市等でも、傘踊りや貝殻節があるので、観光客にPRする方法として定期公演的なことを考えるべき。
観光課	障害者や高齢者等の対応ができるベッドの備わっている旅館が少ない。それぞれの立場に立った施設を考えてほしい。
観光課	現在の状況で、産業の誘致は難しく、やはり観光だと思う。鳥取県にあって他県に無いものは「神話」。古事記に書かれているものを観光資源にすればよい。飲食関係も資源になる。
観光課	鳥取県の情報が、東京・大阪に発信されてこない。情報を選択・集中し、情報発信や若者向けの提案を行ってはどうか。
交流推進課	外国人の若いお嫁さんが結構いる。言葉が通じないので、会話も少なく、それが子どもの言葉の後に影響していることがある。気がつけば保育所を紹介したりしているが、行政が交流を進めるためにしている講座など知らない人もいる。
交流推進課	岩美町には、中国人が120人位いる。低賃金のため、外国人を雇う事業所が多い。が、そのために、日本人が職を失っているような気がする。
地域資源振興室	鳥取県の情報が、東京・大阪に発信されてこない。情報を選択・集中し、情報発信や若者向けの提案を行ってはどうか。
地域資源振興室	鳥取県は著名なまんが家の出身地があり、紹介施設もある。鳥取駅から連絡バスを出すなどして、出身地をうまく利用することを考えてはどうか。
地域資源振興室	古代遺産は大半を島根県に取られている。大山や船上山等もあるのに出雲文化はおかしい。鳥取県は遅れている。

5. 福祉保健部

(1) すぐに判断・検討すべきと判断した意見

担当課	意見内容	意見に対する回答
医療政策課	国は医療体制を整備したと言うが後退してきている。県内には透析のできる病院がなくなってきている。臓器移植法も10年経つが、鳥取県はほとんどできていない。透析患者としては、国を動かし、安心できる福祉・医療体制を望む。	これまで診療報酬の改定のたびに透析に係る報酬が引き下げられ、透析施設の減少に影響していることから、国に対し診療報酬の引上げを要望しています。また、移植の実現に向け(財)鳥取県臓器バンクと連携し、県民の皆さまや医療機関の臓器移植に対する理解を深めるために、引き続き普及啓発に努めていきます。
医療政策課	病院の避難訓練等で、長時間医療を受けている患者(透析等)が訓練を受けられるように考えてほしい。	災害時の対策として透析医療施設を対象にした災害情報ネットワークがあり訓練を行っていますので、この訓練に参加するよう透析医療施設に呼びかけていきたいと考えています。
健康政策課	子どもの1カ月検診に、胆道閉鎖症の早期発見のため便色カラーシートを導入してほしい。	便色カラーシートの導入を含む施策のあり方について、鳥取県健康対策協議会母子保健対策専門委員会において検討を重ねた結果、便色カラーシートの導入については有効性等の評価が不明確であることから、当面の施策として、保護者への普及啓発を強化することとし、平成18年2月に「先天性胆道閉鎖症の早期発見、早期治療のためのチラシ等を活用した普及啓発」について、市町村に協力依頼をしています。 今後の取組みとして、市町村におけるその後の取組状況を確認した上で、平成20年1月末に開催予定の同専門委員会でも再度検討したいと考えています。

(2) 政策提案と判断した意見 なし

(3) 参考意見

担当課	意見内容
福祉保健課	福祉の問題は、福祉の分野の人だけでなく、他の分野の皆さんに入っていただき一緒に話し合っていくことで、理解度も違い意識も変わってくると思う。
障害福祉課	障害者自立支援法は、国が作った全国一律の基準であり、鳥取バージョンにして施行してほしい。
子ども家庭課	県で子育て支援カードを配布されたが、これが政策なのか企業努力なのかかわからない。よく考えてやってほしい。
障害福祉課	障害者福祉について、鳥取らしさのある介護施設になったらと思う。
障害福祉課	「障害者」という名前を変えてほしい。「ボケ」という名前はすぐに直った。
障害福祉課	聾啞者は日本語を習得しきれない方が多いのが実態であり、コミュニケーションの問題で職場に入るのが難しく、対応ができる都会の大企業に行きがち。このような聴覚障害者が、鳥取県に帰る際、Uターン等の配慮をしてほしい。
障害福祉課	聾啞者として少しでも豊かに暮らせる環境、社会を作っていきたい。これを全国に発信していく必要がある。

6. 生活環境部

(1) すぐに判断・検討すべきと判断した意見

担当課	意見内容	意見に対する回答
循環型社会推進課	レジ袋削減に関わっているが、スーパーで「レジ袋はいらない」と言っても、スーパーはサービスと思って個々の品物をビニール袋に入れる。これは過剰であり、積極的に止めてほしい。ただ、止めるなら皆が一斉に止めないといけないうらう。	小売業者、消費者、行政が話し合いの場を持ち、協力してレジ袋削減を進められるような取組みを現在検討しており、その中でレジ袋が不要な消費者への配慮についても協議していきたいと考えています。
循環型社会推進課	学校給食の牛乳パックは、コスト面で折り合いがつかないという理由でリサイクルに回せない。環境教育のためにも、リサイクルの促進を考えてほしい。	学校給食の牛乳パックは、概ね可燃ごみとして処理されていますが、古紙として排出する際の通常の手順(パック内の残り物の処理、切り開き、洗浄及び乾燥)を踏めば、紙資源としてリサイクルが可能です。環境教育の面でも有意義と考えられることから、取組みが進むよう市町村教育委員会へ働きかけていきます。
循環型社会推進課	買い物をして、今の現状はゴミを買ってくるようなもの(過剰な包装)。1人暮らしの増加など家族の形態も変化してきているので、売る側も、包装をせず裸で売るとか、「ばら売り」するなど売り方を工夫してほしい。	ごみを削減する上で、簡易包装を進めていくことは重要と考えており、各商工会議所及び鳥取県商工会連合会ほかの団体に対して、ごみを少なくするための販売について協力要請を行ったところです。 また、小売業者、消費者、行政が協力してレジ袋削減を進められるような取組みを現在検討しており、その中で簡易包装についても議論していきたいと考えています。
景観まちづくり課	都市計画における工業専用地域は、30年前に設定されてから見直しされていない。	鳥取市内の市街化区域の工業専用地域について、鳥取市及び地域住民の意見を聞きながら、平成18年12月に、その一部を市街化調整区域に変更したところです。 今後、市町村及び地域住民の意見を聞きながら、県全体の都市計画区域マスタープランの見直しを行うこととしており、その中で市街化区域と市街化調整区域の区分についても見直すこととしています。
景観まちづくり課	鳥取駅に地下駐車場があれば、観光客が荷物を車に積むことができ、更なる観光客の増につながる。	鳥取駅前の駐車場対策として、鳥取市が中心市街地活性化基本計画の中に来訪者に対応するための駅前駐車場整備事業(立体駐車場の整備)を盛り込んでいるところであり、県としても、鳥取市と一しょに駐車場対策に取り組むこととしています。

(2) 政策提案として対応する意見

担当課	意見内容	意見に対する対応
環境立県推進課	エネルギーの枯渇への対応や食料の問題等を考えると、バイオエタノール等の自然エネルギーに取り組んではどうか。岡山県では間伐材をバイオエタノール燃料にする研究をしている。鳥取県も間伐材の有効利用を考えるべき。	本県では、太陽光発電、風力発電、木質ストーブ等石油等化石燃料に変わる自然エネルギーの導入を進めております。バイオエタノールについては、衛生環境研究所で鳥取大学等と協力し廃菌床を原料として試験研究を始めたところです。なお間伐材からバイオエタノールを製造することは、他県でも取り組まれており、県独自で研究を進めることは考えていません。バイオディーゼル燃料については、普及啓発を図っていることと、間伐材については、木質ストーブ等の普及を図ることにより、有効活用を図っていきたくと考えています。 〔人権、福祉、環境先進県チーム〕

(3) 参考意見

担当課	意見内容
景観まちづくり課	倉吉でレトロ博物館の試みがあった。県も市も地域も一体となっており、協働の好例と感じた。赤瓦の運営についても、倉吉市は途中から「人が出せないので資金だけ提供する」という関わりが変わった。資金もうれしいが、やはり一緒に取り組んでいくということをやりたい。
景観まちづくり課	米子の加茂川沿いにいい街並みがあるが、古い家はつぶされ、せっかくのきれいな景観は壊れていくばかりだ。
景観まちづくり課	鳥取市内には貯水場がない。都会では雨水をビルの地下に貯めたりしているが、鳥取もいろいろな場所に貯水場を作ってはどうか。また、火災は緑があるところで延焼が止まるので、景観上も安全上の観点からも緑を増やしてほしい。

(県民の声として対応しました)

担当課	意見内容	意見に対する回答
循環型社会推進課	<p>生活環境部長からアンケートが来たが、手順に無駄が多い。(封筒に返信用の封筒が刷り込まれているのに、さらに返信用封筒が同封してあるなど。)県民の税金を使っていることを忘れないでほしい。</p> <p>(アンケートが角形2号定形外封筒(A4)で郵送されましたが、同封されている封筒は長形3号定形封筒(A4三つ折)でした。回答用紙を三つ折しても良いなら最初から長形3号で事足りたのではないのでしょうか。また、送付されたA4の封筒は、下三分之一を封筒として再利用できるようになっています。返信用として利用できたのではないのでしょうか。)</p>	<p>発送に際して角形2号封筒ではなく、長形3号封筒を使用すべきではなかったかとの点ですが、1通当たりの重量が50グラムを下回るため郵送料が安くなること及び紙ごみが減ることについてはご指摘のとおりです。このたびの発送に際しては、調査票のほか、パンフレットを同封しており、アンケート対象者の皆さんにきれいな状態でお届けして、多くの方にご協力をいただきたいとの判断からこのような発送の仕方となりました。</p> <p>しかし、行政コスト、環境負荷への配慮を含め判断すべきものであったと考えており、今後はご指摘を踏まえ、実施目的、費用、環境負荷を総合的に判断し、適切に対応してまいりたいと考えています。</p> <p>なお、発送に用いた角形2号封筒の下側に印刷されている部分については、余白の有効利用の観点から受け取った方が容易に定形封筒として再利用できるようにとの趣旨で作成されたものですが、郵便局から該当部分を料金受取人払郵便として使用することは差し控えてほしい旨を確認していましたので、返信用封筒を同封しました。</p>

7. 商工労働部

(1) すぐに判断・検討すべきと判断した意見

担当課	意見内容	意見に対する回答
経済政策課	県内の中小企業には、素晴らしいものを行っているものの倒産の危機の状態にあるものもある。中小企業に目を向けないと、せっかくのものが潰れてしまう。企業がうまくいくまでの間を、県が支援するようなことが必要。	中小企業による経営革新への取組みやベンチャー企業の設立など、特に立上げ時期はリスクも高く大変であると認識しています。 このため、県では研究開発から販路開拓までの一貫した支援を実施しており、立上げから安定期までの資金調達については、各種ファンドやチャレンジ応援資金などにより支援しています。
労働雇用課	聾啞者は日本語を習得しきれない方が多いのが実態であり、コミュニケーションの問題で職場に入るのが難しく、対応ができる都会の大企業に行きがち。このような聴覚障害者が、鳥取県に帰る際、Uターン等の配慮をしてほしい。	障害者の雇用について、県内事業所への啓発に取り組んでいます。また、Uターン等を希望される場合は、ハローワークや障害者就業・生活支援センターで一人ひとりの状況に応じた支援を行っていますので、ご利用ください。
労働雇用課	高校ではアルバイト就業事業を実施している。しかしヤングハローワークでは、高校生というだけで相手にしてもらえない。また奨学金を受けていることがアルバイト許可の要件だが、奨学金を受けていなくても家計が苦しい場合がある。そういった生徒もアルバイトできるようにしてほしい。	ヤングハローワーク(国の機関)に照会したところ、高校生のアルバイトについても対応しているが、就業可能な時間帯に制約があること、年齢不問求人であっても企業側が高校生は不可とすること、学校によっては接客業務禁止としていることなどで、高校生の条件に合う求人が少ない状況であるということでしたので、御理解いただきたいと思います。
市場開拓室	「鳥取の店」について是非宣伝してほしい。また、パンフもつくってほしい。	首都圏・関西圏にある「鳥取の店」のPR等については、県外事務所のホームページでも紹介しています。県内の「鳥取の店」については、「食のみやこ鳥取県協力店」として指定・PRするなど情報発信に努めることとしています。(H20年度予算で要求中)
市場開拓室	アンテナショップについては、行商を行うぐらいのことを考えるくらいでないといけな	現在、大都市圏でのアンテナショップ設置に向けて、県内外の有識者・産業界からご意見を伺いながら検討しているところであり、ご意見を踏まえながらよりよいアンテナショップとなるよう取組みを進めたいと考えています。
市場開拓室	物産観光センターは無くなったが、物産館のようなものを育てるべき。	物産振興には何より事業者の主体的・意欲的な取組みが重要と考えており、事業者の皆様や地元とも連携しながら、県内での販売場所の確保や紹介等の取組みを進めていきたいと考えています。
市場開拓室	二十世紀梨ジュースはどこで売っているのか？、鳥取和牛はどこに行ったら食べられるのか等、わからない。特産品のPRはそういうところも情報発信が必要。	市場開拓局のホームページ内に鳥取県内食品企業のホームページへリンク出来るようサイトを作成中です。その他いろいろな機会を捉まえて紹介していきます。
産業振興戦略総室	福祉関係団体とベンチャー企業等がパートナーとなることでできることがある。鳥取県で先進事例を作れば、視察者等も増えるのではないかと。	各企業の強みを活かしながら他の団体等と連携して新たな事業を行うことは、消費者ニーズ等にマッチし、成長力のある事業展開が期待できると考えます。 県では企業の成長段階に応じた各種支援策を行っていますのでご活用ください。 ・経営革新計画及び補助制度 ・スタート・アップ応援型ファンド(地域資源活用事業への補助金) ・ステップ・アップ応援型ファンド(地域資源活用事業等へのキャピタル投資) ・チャレンジ応援資金(無担保融資制度)

産業振興戦略総室	「ものづくり」も大切。例えば間伐をするとものごくコストがかかるので、切りっ放しで放置するしかない。ペレットにするにも運搬費用が相当かかる。地域の資源を活かしつつ、ものを作る。そのために、一企業ではできないところをぜひ行政に支援してほしい。	県では企業の成長段階に応じた各種支援策を行っていますのでご活用ください。 ・経営革新計画及び補助制度 ・スタート・アップ応援型ファンド(地域資源活用事業への補助金) ・ステップ・アップ応援型ファンド(地域資源活用事業等へのキャピタル投資) ・チャレンジ応援資金(無担保融資制度)
産業振興戦略総室	県内の企業は、認知度が低く、一つ一つの企業が孤立している感じである。同種の企業が連携すれば、大きな産業になり、雇用も拡大するのではないかと。若い人たちが留まるために職業を確保するのであれば、今ある企業を活かすことが必要。県も認知度の低い企業を紹介していくことが必要ではないか。	県においても県内企業のPR強化は重要であると認識しており、県内企業を紹介する「とっとり企業ガイドブック」を作成し、ハローワークや県外の学生相談室やUターン登録者を始め各関係機関や学校に約4,300部を配布しています。 また、県内外で就職フェアを開催する等、県内企業のPRに努めているところです。 さらに、今年度から新規事業として、県内企業を県内の大学や高専の学生にPRするために各学校で「鳥取県の産業・企業紹介フェア」を開催し、県内企業にも参加していただいて企業のプレゼンテーションを行う機会を設けています。 今後も県内企業の更なるPRに努力していきたいと考えています。
産業振興戦略総室	新事業の創出には、3年～5年の期間が必要で、資金もいる。資金源として地方銀行にも参画してもらい、地方の産業育成に力を入れていただいてはどうか。	県では企業の成長段階に応じた支援策を行っていますのでご活用ください。 意見にある地方銀行の参画は、下記チャレンジ応援資金を運用中です。 ・経営革新計画及び補助制度 ・スタート・アップ応援型ファンド(地域資源活用事業への補助金) ・ステップ・アップ応援型ファンド(地域資源活用事業等へのキャピタル投資) ・チャレンジ応援資金(無担保融資制度)
産業振興戦略総室	企業立地促進法において、鳥取県は県内50事業者の誘致と2,500人の雇用を計画されているが、大型企業や関連中型企業は東・西部に行きやすい。50事業者の東・中・西部の振り分けを教えてください。	誘致目標件数50件については、特に東・中・西部の振り分けは設けていません。 企業誘致については全県を候補地として取り組んでいますが、立地場所を決定するのは企業であるため意図的に振り分けることは困難です。

(2)政策提案と判断した意見 なし

(3)参考意見

担当課	意見内容
労働雇用課	岩美町には、中国人が120人位いる。低賃金のため、外国人を雇う事業所が多い。が、そのために、日本人が職を失っているような気がする。
産業開発課	商標登録等の出願件数が鳥取県は最下位。せめて沖縄には勝ちたい。
産業開発課	県でも産官学連携等を行っているが、一般にまで情報が流れてこない。
市場開拓室	新鮮な野菜や魚は人気が高い。鳥取港から揚がった水産物なら、大阪の朝10時の販売には間に合うはず。京阪神にはデパート等がたくさんあるので、県で具体的に指導してやらせてはどうか。
市場開拓室	カレーの消費量が日本一と聞いたが、大阪のデパートでは赤カレー・黒カレーを出しているところがある。イカの腸や墨を使ったカレーだが、イカも特産なのだから鳥取県でも売ってはどうか。
産業振興戦略総室	企業誘致は、企業に来たいと思わせるようにした方がよい。来ざるを得ないようにして来てもらう形が良い。
産業振興戦略総室	保険会社に勤務していた当時は鳥取に帰りたくなかったが、2年後くらいに鳥取に事務所を出そうと思っている。がんばっている人のバックアップをしてほしい。

8. 農林水産部

(1) すぐに判断・検討すべきと判断した意見

担当課	意見内容	意見に対する回答
生産振興課、農業大学校	農大のまわりの梨畑の木が切られていると聞くと、農大生徒が活用するようなことが考えられないか。	(生産振興課) 廃園の有効活用には、所有者のご理解と耕作者の確保、作付品目の選定が必要であり、地域や関係機関が連携し、地域の気候や土質に適した有効活用策を検討することが必要となります。 鳥取県としても、廃園の解消を図るため、廃園利活用の取組みに対しての支援を平成20年度事業で検討しています。 また、園芸試験場等が糖度の高い新品種「新甘泉(しんかんせん)」や「なつひめ」を開発しており、新品種の導入と廃園の利活用を関係団体と連携して県域的に進めたいと考えています。 (農業大学校) 本校では、将来の果樹経営を担うために必要な知識技能を修得させるために、2年間の課程で講義と実習を組み合わせ教育を行っています。実習につきましては、校内に1haの果樹園があり、それを指導職員と学生で年間栽培管理をしながら教育を行っておりまして、これ以上の面積増の必要はありませんし、教育日程上時間的な余裕がありません。従って、農大生による周辺の梨園の活用は難しいのが現状です。 なお、梨づくりの後継者がなく、周辺を含めて梨園が減っている現状を打開するため、生産技術だけでなく流通・販売面の教育を強化して、若者に魅力ある果樹経営を実現するための教育を今後とも進めたいと考えています。
生産振興課	鳥取県の梨のレベルが全国的に下がっている。人気がなくなっている。このような状況をどう見ているのか。	近年、糖度の高い果物が好まれる傾向にあり、品種の特性として赤梨に比べてやや糖度が低い二十世紀梨の評価と需要が低下しています。 今後は消費者のニーズの変化を敏感に把握し、十分に味をのせてから収穫する完熟梨の取組み等を拡大するなど、消費者に求められる果実を生産する産地づくりへの取組みが重要と考えています。 また、園芸試験場等では糖度の高い新品種「新甘泉(しんかんせん)」や「なつひめ」などを開発しており、消費者や市場から高い評価をいただいているところです。鳥取梨産地を復活させる起爆剤として、県域的新品種の導入を関係団体と連携して進めたいと考えています。
森林保全課	森林環境保全税がどのように使われているのか。PRがなされていないのではないのか。	周知が足りなかった面があり、今後は、県のホームページ、広報誌の他、新聞紙上等色々な機会や広報手段を通じて、制度や事業の実績・成果をPRしていきます。
林政課	森林の問題、間伐材の問題をどう打破されるのか。山を持っている人も儲けにならないと言っている。	森林資源が充実しつつある中で、「育てる林業」から「収穫する林業」へ転換するためには、低コスト林業の推進が最も重要と考えており、施業の団地化、路網整備、林業機械整備などの支援を行っているところです。 また、間伐の推進と間伐材の有効利用を図るため、間伐への支援のほか間伐材の搬出についても、支援を行っているところです。
耕地課	防火対策で、冬、用水路に水がない。農業用水の管理を市民と農業者が共同で行い、冬も水が流れるようにしてはどうか。	一般的に農業用水路の管理は土地改良区や水利組合などが行っていますが、冬期には水管理などの問題から水を流していない水路もあります。しかしながら、集落内を流れる水路では、生活用水や防火用水として冬期にも水を流している例もありますので、地域住民と農業者(水路の管理者)が話し合っただき、防火対策として冬期に水を流すなど適切な防災体制について検討していただきたいと思います。

(2) 政策提案と判断した意見 なし

(3) 参考意見

担当課	意見内容
水産振興局	ホンモロコは高級魚であり、関西に売り出せば付加価値の高いものになる。そういうのを支援していけば、雇用にもつながる。
生産振興課	梨づくりの後継者がなく、梨の木を切っていると聞いた。梨で売っているのに梨の木を切る現状はどうしたものか。

9. 県土整備部

(1) すぐに判断・検討すべきと判断した意見

担当課	意見内容	意見に対する回答
道路企画課	大学生は、自転車が主な交通手段だが、特に大学周辺の歩道の整備がなされていない。すべてとは言わないが、主要道路だけでも自転車道を整備してはどうか。	これまで県では、歩行者や自転車の多いところに自転車・歩行者道を設置していますが、今後、主要な道路においては、自転車と歩行者を区分するようなことを検討することとしています。
道路企画課	交通安全の施策で、必要なところにガードレールが設置されていないところがある。よく点検し、必要なところにガードレールの整備をしてほしい。	県では、必要な箇所にはガードレールを設置するようにしていますが、お気づきの箇所がありましたら、各総合事務所県土整備局へご連絡ください。 現地を確認のうえ、速やかに対応したいと考えています。

(2) 政策提案と判断した意見 なし

(3) 参考意見

担当課	意見内容
県土総務課	公共事業関係の仕事をしている。県予算は20年前とそんなに変わっていない気がするが、閉塞感が感じられるのはなぜか。建設業は除雪等で地域に貢献し、また、携わっている人も10%を超えているにも関わらず、冷遇されているように感じる。
河川課	川の水量が減り防火用水にもならない。
道路企画課	(隣県から通学している生徒の意見)鳥取の道路には消雪設備がなく、冬に車で出かけるににくい。
道路企画課	車に関して言えば、国道9号線は幅員もあり走りやすい。ただ、歩道の無い部分もあり、交通弱者に配慮する部分が欠けているところが見られる。
道路企画課	全県的に歩道と車線を増やしても良いのではないかな。
道路企画課	北条湯原道路で、倉吉は湯原ではなく蒜山とつなげるほうが良いのではないかな。他県からの観光客の誘致という観点で道路を整備していけばと思う。

(県民の声として対応しました)

担当課	意見内容	意見に対する回答
東部総合事務所	全体的に川の水量が減っている。袋川の水量は顕著。河合谷高原のブナ林伐採が原因ではないか。災害もあった。豊かな森を守ることが大切。河合谷高原もブナ林に戻してはどうか。	<p>【1 大根畑の未利用地を元のブナ林に戻すべきではないか】 大根畑は雨滝集落が所有されていますが、年々入植者が減少しており、現在未利用地の面積は17ヘクタール程度あります。この未利用地については、土地所有者である雨滝集落の意向を踏まえて、鳥取市と鳥取いなば農協が新規就農者の募集を検討されているところです。この未利用地をどうするかについては、まずは雨滝集落が判断されるものと考えますが、県としては、河合谷農地の活用は地域農業振興のため必要であると考えています。</p> <p>【2 河合谷牧場をブナ林に戻すべきではないか】 河合谷牧場は、県が乳用牛及び肉用牛を放牧育成する施設の整備を目的として、昭和46年から河合谷高原の原野やブナ林などの開発を始め、昭和55年に完成した公共育成牧場です。県が整備した公共放牧場は県下に5カ所あり、現在、財団法人鳥取県畜産振興協会が管理運営を行っており、年間約1000頭のホルスタイン種及び黒毛和種の育成牛を畜産農家から預かって放牧しています。このうち河合谷牧場では、春から秋までの雪のない時期に、乳用牛を100～200頭放牧しています。放牧育成することで、子牛は健康に発育し、また効率的に飼育管理できることから、約150戸の畜産農家の皆さんに利用されています。このように、河合谷牧場は畜産農家の経営の一部として定着しており、担い手農家の規模拡大にも大いに貢献するなど、今後とも畜産振興の拠点施設として重要な役割を担っており、現在のところブナ林へ復元することは考えていません。</p>

10. 教育委員会

(1) すぐに判断・検討すべきと判断した意見

担当課	意見内容	意見に対する回答
家庭・地域教育課	『公民館活動の活性化を』 町村合併も2～3年経過して、各市町とも支所及び小学校、中学校の統廃合が目前の課題となってきた。このことを考えると、地区公民館を文化の拠点、生涯学習の拠点とすることが重要。県の助成で社会教育主事を各館に配置して地域の活性化を図って欲しい。	公民館活動については、地域活性化のためにも各市町村において活発に進めていただきたいと考えています。 県が社会教育主事を配置するための助成を行う予定はありませんが、公民館職員等の資質向上を図るための研修の実施などを通じて引き続き支援を行っていきます。
家庭・地域教育課	例えばPTAでこんな事業をしたい、と思っても、市町村教委からはその事業を進めるための情報提供がないのが実態。知っている人が知っているだけで、一般の住民がチョイスできるようになっていないように感じる。	各学校単位で活発なPTA活動を行う上でのヒントとしていただくため、組織のあり方や県内PTAの特徴的な活動事例などをまとめた「みんなのPTA」を毎年作成し、ホームページ上で公開していますのでご活用ください。 また、役員等を対象とした研修会等を通じて様々な情報提供を行っています。
高等学校課	鳥取駅周辺などにごみが目立つ。高校生も参加できるリサイクル運動などを進めてはどうか。鳥取湖陵高校には緑地デザイン科がある。駅周辺の緑を増やす活動など、地域活性化に高校生を活かしてほしい。	鳥取湖陵高校では、最寄のバス停や近隣の小学校でのプラント設置など、地域の緑化活動に可能な範囲で取り組んでおり、今後もこのような活動を継続していきたいと考えています。
高等学校課	米子工業高校が進学校化されようとしている。工業高校は生徒の技術をつけることが必要。	専門高校の進学者は全国的に増加傾向にあります。米子工業高校では「地域産業との連携による産業教育充実事業」(県の事業)や「ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業」(国の事業)を実施するなど、産業界の意見等も伺いながら、ものづくり人材育成に努めているところです。
高等学校課	高校ではアルバイト就業事業を実施している。しかしヤングハローワークでは、高校生というだけで相手にしてもらえない。また奨学金を受けていることがアルバイト許可の要件だが、奨学金を受けていなくても家計が苦しい場合がある。そういった生徒もアルバイトできるようにしてほしい。	ヤングハローワークでは、アルバイトの相談、紹介、斡旋を行っています。 なお、アルバイトの許可は、学業に支障をきたさない範囲で各学校長の判断で行っており、経済的理由によりアルバイトを許可している学校も多いようです。許可要件に関しては、各学校に問い合わせてください。
高等学校課	初めての生徒でも安心して働けるよう、県が安全な場所や職を許可する仕組みがほしい。	県教育委員会は、生徒の望ましい勤労観・職業観の育成を目的として、アルバイト就業事業を実施しています。受入企業はこの事業の趣旨を理解していただいている企業ですので、この事業を活用してください。
教育環境課	養護学校との生徒とふれあう機会をもっと増やすため、学校のバリアフリーを進めてほしい。	県立学校のバリアフリー化については、出入口のスロープや障害者用トイレを整備するなど、今後も整備を進めます。
特別支援教育室	盲・聾の教育は別物。対象者の人数が減っているからといって、統合しないでほしい。	視覚障害と聴覚障害の教育内容は、大きく相違していることは認識しています。今後については、県民や関係者等の声をお聞きしながら、検討していきたいと考えています。
博物館	県立博物館は駐車場が少ない。県庁と博物館の道順案内も不親切でウロウロした。西部の人にももう少しメリットが感じられるようなものにしないと、鳥根県へ流れてしまう。	県立博物館としても、近くに臨時駐車場を確保するなど駐車場確保に努力してきたところですが、現時点でも十分な駐車場がなく、利用者の皆さんに不便をかけ心苦しく思っています。今後も引き続き鳥取市とも協議しながら駐車場不足への対応に取り組んでいくこととしています。 なお、駐車場の警備員の対応についても、わかりやすく親切な案内誘導ができるよう指導していきたいと考えています。 また、当館が東部にあるため、中・西部の皆さんには不便をおかけしますが、現在は中・西部の会場で巡回展を開催するなどできる限り広く県民の方々に博物館の事業成果を享受していただくよう努めています。 教育、学術及び文化の発展のために貢献できる施設として努力していきたいと考えていますので、運営などに関する要望などがありましたら、お寄せいただきたいと思います。

(2)政策提案と判断した意見 なし

(3)参考意見

担当課	意見内容
小中学校課	人口が減っている。特に郡部では生徒数が激減することだが、教員も減っている。中学校に体育の教諭が一人しかおらず、男子の体育はその教諭が、女子の体育は家庭科の教諭が行っていた。また、英語の教諭が理科を教えたりしていた。複数の学校を一人の教諭が担当する科目もあった。(八頭郡?)
小中学校課	インターネットの普及で、学校でもその技術を学ぶ機会が増えているが、低学年では、まず、相手との話し方などの基本的なことを教える場が必要ではないか。
小中学校課	子どもたちが自分たちで何かを運営していく機会がもてないかと思う。子どもたちが関わることで、その成功体験が将来のまちづくりにつながる。
高等学校課	学校で、自分にあった先生を選べるシステムがあれば、もっと勉強する気が湧くのではないかと思う。
高等学校課	高校教育にもっとお金をかけて欲しい。学食があればいい。一般的な教養を身につけることも分かるが、もっと柔軟な学習課程となり、大学受験に的を絞った学習がしたい。
博物館	博物館が「大久保英治とたどる木喰上人の道」のイベントをしていた。良いと思った。

11. 県議会事務局

(1) すぐに判断・検討すべきと判断した意見 なし

(2) 政策提案として対応する意見 なし

(3) 参考意見

担当課	意見内容
県議会事務局	県議会や市町村議会の議員数が多すぎる。議員数の検討をしてほしい。
県議会事務局	行政の件で議員数をもっと減らすべき。アメリカでは人口40万人に議員は5人程度。これからを共に考える県であれば、誰でもいつでも意見が言える仕組みづくりが必要。